

埼玉労働山

埼玉県勤労者山岳連盟機関紙 発行:武笠真次
〒336-0011さいたま市浦和区高砂 4-1-5 ふじビル2階 編集:青木 正

積極的な活動 各地で熱い埼玉!

第七回遭難防止・安全

教育担当者会議報告

十一月十五日(土)午前

浦和コミュニケーションセンタ

にて行われました。

参加者 十四団体、十九名

(理事七 委員十二)

・議題

1. 全国遭難対策担当者会議(十月四、五日)より

武笠理事長、徳重救助隊長から会議の内容について紹介があった。主な内容としては、

山での突然死 山行計画の管理 事故を起こす体質(遭難事故を起こしやすい人、パーティ、会の特徴) 質疑応答で、秩父アルペンクラブより、事故を起こしやすいパーティの特徴に「この指止まれ方式」があるが、我がクラブでは最近この傾向が強くなっている。本当に事故に繋がる可能性が高いのか?との質問があった。この件に関し他のクラブ(会)から「この指止まれ方式」の傾向と山行計画の管理方法の現状を報告してもらった。「この指止まれ方式」ではメンバーの体力不足、認識が統一されない、計画書がズサンなど

の問題が起こりやすいが、これにきちんと対応して行ければ事故はなくせると思われます。

2. 救助隊の活動報告

関東ブロック合同搬出訓練(十月十一、十二日)

白毛門東黒沢、参加は埼玉のみであった。十名参加。

岩場搬出訓練(十一月九日)都幾川 女ヶ岩にて実施 九名参加。セルフレスキューを主体としての訓練。

その他、五十歳代の女性の事故が多いことから今年度も女性委員会主催で「山での救急法」の講習会を計画します。

3. 安全登山に関連するその他の報告・案内(理事長より)

山岳事故調査書の「統一フォーマット方式」について

労山全国遭難本部は従来の事故報告書を「統一フォーマット方式」に改めました。これは労山、日山協、都岳連、日本山岳会などの

共済または山岳保険をもつ団体が協力して山岳遭難防止のための事故データベースを作ることを目的としています。今後はこの統一フォーマットでの報告をお願い

したい。統一フォーマットは全5ブロックから構成されていてかなり長い内容ですが、実際に記述する部分は少なく、約三十分程度で記入が可能です。

登山学校、「山での救急法」講座で使用したテキストの紹介

今年度、軽部講師が新規に作成した「山での救急法」のテキストについて紹介があった。

このテキストは皆さんの参考になると思うので、各クラブ(会)宛に一部配布することを予定します。

日和田山清掃登山の報告と日和田山でのクライミングにおける事故例の報告

4. ヒヤリハット継続審議 前回の会議に引き続き、ヒヤリハット事例の報告をお願いしていたが、今回までに提出があったのは新座山の会の2件だけで、その内容について矢崎理事から報告があった。

その他、笠歩富士見山の会から事故一報が提出されていることを報告。

ヒヤリハット報告集での取りまとめ方法については別途検討することになった。尚、ヒヤリハット報告書については報告集にまとめ

るので、引き続き遭難防止・安全教育担当者まで提出をお願いします。

三郷山の会 八木原健一記

日和田山清掃活動に参加して

西武線高麗駅から徒歩で三十分、彼岸花で有名な巾着日田から見える山が日和田山である。

日和田山の中腹に、高麗岩と呼ばれる高さ二十五m程の男岩と女岩は、昔から岩登りのグレンデとして使われ、日本のフリークライミングの発祥の地といわれています。日曜日ともなると各地からクライマーが訪れて、岩場には簾状にロープが下がる様が見られます。

近年、用心を怠ったため的人為的なミスで、二人の方が岩場より落下して亡くなってしまふ事故が起きました。この様な事が二度と起きないように、また事故が起きると、この岩場が使用禁止になる事態にならないようにと、今年の三月に日和田の主のような吉田恵一さんの呼び掛けで有志が集まり、日和田山周辺のゴミ拾いを行いました。参加者の中には、世界的に有名なプロクライマーの平山ユージさんや、ローカルレ

ビの方、日高市の職員の方なども参加して、今後もこの活動と共に、岩場で危険な行為をしている人には注意を促す活動もしていこう、また必ずヘルメットを装着してクライミングに臨もうと言う事も話し合いました。

十一月九日の日曜日に第二回の清掃活動が実施されました。今回は無名山塾の岩崎元郎さんの呼び掛けで、吉田恵一さん、平山ユージさん他、百数十人の参加があり、ニュースと有名人の力は凄いものと感じました。清掃活動後、グレンデの女岩で平山ユージさんの登りを見せて頂きました。三本登られました。グレンデの高いルートをいともたやすくこなし、さすがプロと感嘆しました。

昼に閉会となりましたが、その後は各自の自由行動となり、私達は夕方までクライミングを楽しみました。日和田山は埼玉にあるにもかかわらず、埼玉労働山からの参加者は私の知る限り、岩つぼめ二名、飯能労働山一名、浦和山の会二名の五名でした。次回はもう少し埼玉労働山の力が結集できればと望みます。

浦和山の会・軽部 章



第十四回全国登山者

自然保護集会

自然保護担当理事

杉江 勲

十一月十五日、十六日、表丹沢野外活動センター(秦野市)で労山全国連盟主催、「地球温暖化が山岳自然に及ぼす影響と自然を傷つけない登山についての労山のスタンダード(基準)について考える」というテーマで開催された。

一日目は全国の労山仲間が一六八名参加。斉藤全国連盟理事長は挨拶で「労山自然保護憲章」を制定して三年目を向える中で、十一月十四日、環境大臣に「山岳自然保護に関する要請書」を提出したとの報告があった。地元の渡辺神奈川県連会長から丹沢山地には年間三十万人の入山者があり、登山道の裸地化やシカの食害が進行しているとの

報告があった。

浦添全国連盟自然保護委員長からの基調報告の後、西岡秀三氏(国立環境研究所)から「地球温暖化と山岳自然への影響について」というテーマで記念講演が行われた。講演の中で温暖化による世界全体での気候変動の現象や日本ではブナ等樹木の衰退(白神山地のブナも今世紀中頃には消滅するかも)や積雪の減少によるシカ・イノシシ等の分布拡大等の報告があり、炭酸ガスの排出量を二〇五〇年には半減以下にする低炭素社会の構築が不可欠だとの説明があった。

つづいて、全国の七地方連盟から各連盟での自然保護活動の報告があり、長野県連から大型風力発電建設が上信越高原国立公園の根子岳(この一帯はイヌワシ・ミヤマモンキチヨウの生息地)に計画されている。この風力発電が建設されることになる重機の搬入道路の建設や本体の基礎工事等大掛かりな工事が必要になり、高山植物やイヌワシの生息環境が破壊されるとともに地域住民の水源の不安や建設工事による土石流災害を誘引する危険性等の

問題提起がされた。

今回の集會に参加して「地球を守る一つとして山を守る」登山者として一人ひとりが傷つけない登山を考へることや山岳地域での植生調査・水質調査、それに緑を増やす植樹活動など継続出来る身近な事から実行していく必要性を強く感じました。



全国自然保護集会

二日目に参加して

理事長 武笠 真次

私は第一分科会に出席しました。山の水質調査に関する報告を愛知県連、神奈川県連、兵庫県連などから報告を受けた。神奈川県連の取り組みを採り上げると、一九七八年から毎年欠かさず調査してきた「水質調査」の取水場所、方法などを整備させて、一九九四年より、東丹沢の沢、水場の水質や大腸菌の有無など検査機関に依頼し、参考データとし

て公表していた努力が現れている。埼玉労山も神奈川県連の取り組みを少しでも学んではどうかと考えせられた。

今集會の参加者は十一月十五日・十六日で百七十九名、第一分科会三十五名、第二分科会三十三名、第三分科会十名、第四分科会十九名、第五分科会十五名の参加が報告された。

全国連盟自然保護委員会より各分科会のテーマと運営について

労山自然保護憲章が制定されて三年、各地方連盟・各会で憲章の学習もすすめられ、憲章が登山活動の中で具体化されつつあります。労山自然保護憲章をさらに発展させていくために、全国の仲間の優れた自然保護活動に学ぶとともに、憲章の内容を豊かにするために積極的な意見を寄せていただくことをお願いします。五つの分科会を設定しました。全国の多彩で先進的な活動を直接聞き、積極的に質問し、討論する分科会にしていきたいと考えています。

全か...

山紫水明の国と言われた日本の山々の水も、登山活動が活発になるなかで、オーバーユース、山のトイレ問題などによって汚染されてきています。このようななかで、「山の水は大丈夫なのか」ということから、山の水の水質調査を系統的に実施している県もあります。安全でおいしい山の水を守るために、登山者としてどのようにしていいたらいいか考えましょう。

第二分科会 「自然を傷つけない登山とは...」

山に登ることそのものが山を傷つける行為であることとを自覚することが自然を傷つけない登山を考える上で非常に大切なことではないでしょうか。自然への負担を可能な限り最小限にとどめるためにはどうしたらいいか、登山者自身が自然と共存を模索していくことが登山者としての責任ではないでしょうか。オーバーユースの問題、ストックの正しい使い方、踏み荒らしの問題など、登山者としてどうすべきなのか考えましょう。

登山者が自然の中に持ち込んだゴミなどを置き去りにしないこと。これが山を汚さない基本ではないでしょうか。労山は、山の清掃活動に取り組んで三十五年

全国一斉クリーンハイク活動は、登山者のモラルを高め、登山道のゴミは少なくなってきたいます。清掃登山の活動範囲を広げることでも求められていますが、登山者が山歩きで移動時のトイレ問題にも更に取り組み、山を汚さない登山を考えていくことも求められています。

第四分科会 「地球温暖化と登山者の役割は...」

地球温暖化は、山岳自然にも大きな影響を及ぼしています。温暖化による降雪量の減少は動物の行動範囲を広げ、森林や高山植物の生態系にも大きな影響を及ぼしています。山岳地域への温暖化の影響や貴重な生物・植物生態系の状況、大気汚染による山岳森林への影響など登山者でなければできない調査・監視活動を継続して行うことも求められています。三面へ続く





二面より続く
 登山行動の中で温暖化の原因物質である二酸化炭素を減らすことも求められ、登山者として誰もでき、効果的なものとして、「登山活動上のリユース」(再利用)の普及も必要です。
第五分科会 「里山の自然を大事にし、山の多様な楽しみ方を求める登山スタイルとは・・・」
 自分の好きな山で、山歩きを楽しみ、山麓の文化に触れ、地域と交流することが、登山者の自然を大切にすることを、育ててくれるのではないのでしょうか。里山は、その住む人々の生活と切り離すができないほど密接に関わってきました。登山者は、地域の山、好きな山、里山などどのようにに関わり、それぞれの山域や地域の特性を尊重した登山など、山の多様な楽しみ方を模索するなど自らの登山スタイルを求めていくことも必要ではないでしょうか。



登山学校だより
 第13期6回
 救急法

山での救急法

浦和山の会 柴田典峰

十一月二日(日) 栃木県、

鹿沼の岩山にての実技実習

に参加。

日吉神社の先で登山道に入り

り大きい岩・形状の色々有

る岩をクレイムハイストノ

ットで登り、展望のよいC

峰の頂に着く。その後、梯

子を登り、急な岩場を下り

二番岩付近に着き昼食をと

りました。

下山の途中でブレイシステ

ムを理解する為にムンター

ヒッチで岩場を下山。

そのあと、針葉樹の場所

で事故者の移動方法を見る。

私は腰痛持ちの為、他の皆

さんが実行しているところ

を見るが想像以上にきつそ

う！ 又、安全に注意して

山行する事がどれほど大切

かと骨身に浸み込み、事故

を起こすと周りの人々に多

大な迷惑をかける事も実感

しました。

最後になります色々な

ことを経験出来てとても楽しい山行になり、運営委員の方々に感謝申し上げます。

山遊会ビスターリ

廣岡美恵子

講師は日赤の渡辺浩氏(ハ

イジアルペンクラブ)

により一日目の机上では救

急法を中心に行われました。

傷病者発生 周囲の観察

(自分の安全確保) 意識

の確認 反応あり・無しで

の対応の違い。

・意識無し 協力者の求め

(救急車AED) 胸骨圧

迫 人口呼吸 AED 後

は3点の連続 救急車への

引継ぎ。

・三角巾の使用方法・等。

今更恥ずかしくて聞けない

様な細かな事まで丁寧に時

間をかけて教えて頂きました。

二日目の実技は鹿沼の岩山

にて、岩場などの安全な通

過方法、救出法、また岩場

での搬出法など、いざとい

う時に持っている物で何が

出来るかを学びました。

講習の場面でもドキドキ

緊張してしまいます。突然

の時、少しでも適切な行動

がとれる様、機会があれば

また受講してみたいと思

います。



岩搬出訓練報告

日時 十一月九日(日)

曇り

場所 女ヶ岩 都幾川町

参加者 大宮登山2、熊谷

トレッキング同人2、ハイ

ジ1所沢ハイク1、桝歩

2、上福岡やまなみ1、

以上計9名

八時都幾川町公民館駐車場

集合九名の参加者を確認し、

訓練場所の「女ヶ岩」へ出

発。

八時三十分現場に到着。各

自個人装備を装着し、準備

完了。

隊長・副隊長は訓練用支

点地二ヶ所設定及び固定ロ

プの設営。

隊長より訓練の注意事項の

話を受けて、9時訓練開始

する。

二班に分け、それぞれの訓

練支点地に移動。

訓練内容

懸垂下降、要介護者をサポ

ートしてのローアダウン、

懸垂下降中の仮固定、登り

返し、三分の一による引き

揚げ、その他
 上記の内容を繰り返して、訓練する。

さらに支点への器具のセッ

トに参加者全員が自分でセ

ットし、全員で確認しあ

うなど実践的訓練となりました。

当初十五時訓練終了の

予定でしたが、参加者の意

欲に押され一時間延長して

十六時に訓練終了した。

所見

当日は当救助隊のみが使用、

少人数であったため、各自

が実際に器具の操作を行う

など実習・確認できたこと

は有意義と感じました。

救助隊事務局 三宅 宣之

理事会報告

十一月二十六日(水)浦和県

連事務所にて第九回理事会

が十五名の出席で行なわれ

ました。

委員会活動経過報告・予定

【全国連盟活動】

第二十八期臨時評議会

十一月九日 於：全国連盟

事務所、参加：武笠理事長

【事務局】

川越トレッキングより特別

基金についての問い合わせ

有り。カレンダー郵送済み

(残り十部)

三役会議 十二月四日(木)

【財政】後期連盟費未納
 四団体、早急に納入を！

【ハイキング】

熊倉山心拍数実験登山の準備と最終打合せを行なう。

現在 参加予定 三十九名

【自然保護】

十一月十五日、十六日 全

国自然保護集会在丹沢で開

催。埼玉から杉江・湯見・

武笠 三名参加

詳細報告は別紙で。

【海外】計画書二団体新

座x2)

【遭難防止・安全教育】

十一月十五日 遭難防止・

安全教育担当者会議

【救助隊】

十二月八日 雪上搬出訓練

学習会(机上)

一月二十四日、二十五日

雪上搬出訓練(実技)

【登山学校】

十一月一日 山での救急法

(机上) 十五名、十一月

二日 山での救急法(実技)

十三名、岩場の坂道での搬

出を想定、十二月六日、七

日 総合学習登山 鞆柄

岳・荒船山

【岩ネット】二月幕岩予定

【登山ゼミナール研究】

スタッフ募集中、今回の実

施を三役会議で最終決定

四面へ続く

三面より続く
ブロック活動

西部：会議：十一月十六日
交流ハイク最終打合せ(交
流ハイク雨天中止)三月雪
山登山予定

次回：一月十四日
南部：会議：十一月二十日
次回：十二月十八日

中部：十一月九日 青梅
地図読み山行

北部：熊倉山心拍登山に協
力

加盟団体活

動情報

総会情報：川越トレッキン
グ：遭対基金の説明を兼ね
理事長に出席要請有。

議題

安全登山講演会報告

十一月十五日(土)
浦和コミセン 十四時二十
分～十六時三十分

講師 大野秀樹氏(杏林大
学医学部衛生学教室主任教
授)

テーマ「登山と健康」

参加：六十九名

反省：講師との打合せ不
備により、講演内容の資
料・レジメ、スライド上映
の為のパソコンと互換ソ
フトが用意出来なかつた
事で、プロジェクトが使
用出来ず講師や講演参加

者の皆さんにご迷惑をか
けてしまいました。講演内
容や準備については全体
的には良かったものではな
いか。また、参加者募集す
る意味では全国連盟や県
連内の行事日程を調整す
る必要あり。七五三とも重
なり、参加できない会員も
多かつた。他...

遭難防止・安全教育担
当者会議報告

十一月十五日(土)
浦和コミセン 十時～十二
時三十分 参加 二十一名

議題：ヒヤリハット継続審
議で活発な意見交換と討議
となりました。今後、各会
から集まったヒヤリハット
の内容や資料の扱い方をど
うするかについては、担当
者会議だけでなく機関紙等
に内容を掲載する等、情報
を公開して欲しいとの意見
もあり、検討して行くこと
で決定しました。

第二回評議会

期日：平成二十一年一月二
十五日(火)十三時～
会場：ふれあいプラザいわ
つき(予約済み) 東武野田
線 東岩槻徒歩七分

(他にも会場を検討中)
議題：遭対基金(特別基金)
の行方
・保険業法適用除外の運動

を続ける。(第一次署名運動
のパンフを機関紙と一緒に
送り、評議会に持ってきて
もらう。)

・全国連盟臨時評議会にお
いて提案された方針につい
て。(特別基金を今後も続
ける。但し、新特別基金と
して定款(案)を作成。)

資料を各加盟団体へメール
する。埼玉県連としては、
第二回評議会で協議し、意
思決定をする。

その他
・十一月末 各加盟団体
の登録会員数の把握

・熊倉山心拍実験登山の
確認

・第十回理事会 十二月
十六日(火)に変更!

澤藤理事(記)

署名協力をお願い

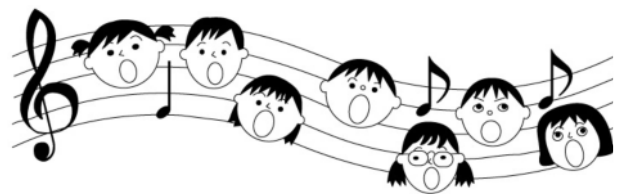
国会の動向も不明で保険業法についても先延ばし
し或いは何時になるのかもわからない状況です
が可能な限りの闘いをしていきましょう。
再度の署名用紙を会員全員分、機関紙と一緒に
届けますので県連評議会までに各会の事務局に
提出ください。評議会時に集め、埼玉県連全体
分をまとめて提出します。絶大なご協力を!!

みんなの歌 花 作詞 喜納 昌吉 作曲者 喜納 昌吉

- 川は流れて どこどこ行くの 人も流れて どこどこ行くの
そんな流れが付く頃には 花として花として 咲かせてあげたい
泣きなさい笑いなさい いつの日か いつの日か 花を咲かそうよ
- 涙流れて どこどこ行くの 愛も流れて どこどこ行くの
そんな流れを このうちに 花として花として 迎えてあげたい
泣きなさい笑いなさい いつの日か いつの日か 花を咲かそうよ
- 花は花として 笑いもできる 人は人として 涙も流す
それが自然の 唄なのさ 心の中に 心の中に 花を咲かそうよ
泣きなさい笑いなさい いついつまでも いついつまでも 花を掴もうよ

泣きなさい笑いなさい いついつまでも いついつまでも 花を掴もうよ

1980年(S.55)、コーラスグループ"喜納
昌吉とチャンブルーズ"が歌いました。
副題は「すべての人の心に花を」、多くの
歌手がカバーしている曲です。



♥インターネットで「山の愛唱歌集」を開くとメロディーも流れてきますヨ!!

編集後記

先日、「ウォーリー」を
南古谷にできた新しい映画
館で観てきました。ゴミの
山となった地球で七百年も
の間、一人で処理を続け
る「愛」にあこがれ待ち続け
るロボット。さて人類はあ
る指導者により宇宙旅行と
いう名目で地球を離れ旅行
船の中で最先端の便利さに
おぼれ何もせずに食べたり
寝たりで太り、歩けなくなる
ほど。地球を監視にやつてき
た最先端のロボットとウォ
ーリーが遭遇し...。
現代に忠告をする気が
しました。アニメ風の映画
でしたが、家族揃って楽し
める作品では是非お勧めです。
十二月に入り急に寒く
なってきました。高山では
だいぶ雪が。先日行った妙
義・相馬岳からは雪化粧の
浅間と裏妙義の景色が最高
でした。寒さと風で手がか
じかむ程でしたが(恐怖心
も加わって...)。
今年もあとわずか、来年
が良い年になりますように。
百四十二号原稿は年内締め
切り。印刷は新年一月十二
日(月)の予定です。
今年は何処で年を越し
ましようかね (アオ)